

## コラム 34—1920 年のニコラエフスク事件

シベリアに出兵した連合軍が撤兵するや、ニコラエフスクで日本軍守備隊 350 人、日本人居留民 380 人がソビエトの赤色パルチザン（ロシア人、朝鮮人、中国人）4,000 人に包囲された。ロシア革命 3 周年記念の 3 月 12 日、交戦状態に入り、守備隊、居留民の大半が戦死し、生き残りの軍人・居留民 122 名は、投獄されます。5 月 24 日、石田副領事夫妻を含む日本人全員を虐殺、その他、共産主義に反対するロシア人を大量に殺害しました。

生き残り投獄された者が、虐殺される前に残した牢獄での絶筆は、「大正 9 年 5 月 24 日午後 12 時を忘れるな。共産党はわれらの敵なり。」でありました。

ニコラエフスク事件は「元寇以来の国辱」として、我が国民感情を著しく激昂せしめました。当然ながら対ソ強硬論が高まり、日本軍は事件解決まで、北樺太を保障占領することになり、シベリア撤兵は大幅に遅れることになったのです。